



山登如

# 2021年度 付中通信第3号

## SDGs の探究学習

2021.5.24

高水高等学校附属中学校長 宮本 剛

「たかちゅう」の探究学習は今年5年目を迎えます。探究の学習班は学年の枠を外した異学年で構成されます。生徒は各人の興味関心に応じ、先生方が設定したテーマから1つを選んで所属します。こうして先生のもとに集まって学習班ができます。これをゼミと呼び、先生方はファシリテータ役を務めながら、示されたテーマの問題点を調べ、課題を発見することから活動が始まります。

### 6年にわたる課題研究プログラム

前 期		後 期 (探究学習)
中学1年	■ 楽学の源流 高水訪問 学園発祥の地を探索	■ 学年の枠を超えたグループを構成 ■ SDGsを共通テーマに
中学2年	■ 歴史と伝統 郷土学習 岩国の史跡めぐり	
中学3年	■ 戦争と平和 平和学習 回天記念館訪問	
高校1年	■ 多様性社会 学校交流 海外修学旅行	
高校2年	■ 地域と情報 社会貢献 少子高齢化とグローバル化	
高校3年	■ 社会と自己 進路探究 持続可能な仕事と志	

中六合同発表会

私自身も4年間、この探究のスタイルにしたがって、テーマを決め、生徒と一緒に学習を進めてきました。スタイルとしては全国にも例を見ない、革新的でユニークな方法だと思うのですが、ファシリテータ役として生徒たちから問題意識を引き出し、課題の発見へと導くのは、大変難しいことでした。

他の先生方もそうでしたが、課題は発見することを前提に進めるわけですから、あらかじめ見つけた課題の解決方法も、ましてや解答もわかってはいません。教科書や問題集にあるような、出来合いの問題をみんなで知恵を出し合って解くということとは、まったく次元の異なる活動なのです。

私はこの4年間、自分自身がそれまでずっと気になりながら曖昧（あいまい）にしてきたこと、説明のできないことを進んでテーマに取り上げてきました。最初の2年

間は、「AI化」によって社会はどう変わるかをテーマに、AIの限界を確認して、将来どういう職業に就くべきか、さらに新しい仕事を提案していくという形で、課題の解決としておきました。3年目から「多様性社会」をテーマに、「LGBTQ」と「外国人労働者」を採り上げ、問題点を探り、課題を見つけ、解決の方法を導き出しました。



令和2年度中六合同発表会

「LGBTQ」では、カナダの姉妹校の生徒や付中の保護者にもアンケート調査という形で協力を得ました。「外国人労働者」では、「ほんもの」の外国人労働者と接触することができず、彼らを知る日本在住の東南アジア人からインタビュー形式で話を聞き取り、問題を整理しました。

申し訳ないことですが、学習の中心にあるべき生徒たちよりもファシリテータである私自身の方が、もしかしたらより多くを学ばせてもらったかもしれません。この「たかちゅう」方式の探究学習がなかったら、この4年間で積み上げられた私自身の学びの体積は味気ないものになっていたことは明白です。

今年5年目からは六年制普通科の1・2年の先輩たちも、SDGsを共通のテーマに掲げ、学年の枠組みを外したグループを作り、中学校が築いた探究のスタイルを踏襲する形で、「探究学習」は中高一貫のブレのない取り組みとして、新装開店します。

私は今年、「命」を真正面から取り上げる予定です。なぜなら本校に足りない教育に「命の教育」というものがあると考えてきたからです。